

区分	チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室スペース等の十分な確保	コロナ禍で利用者数が多くなり、利用者一人あたりに対する広さが十分ではなかった。	はい60% わからない40% 利用人数が多すぎて、活動スペースが狭く感じることもある。	利用者一人あたりに対する十分な広さを確保できるよう、一日の利用者数を検討していく。
	2 職員の適切な配置	コロナ禍で利用者数が多くなり、職員一人に対する利用者数が十分ではなかった。	はい66% わからない34% 子どもの人数に対して、職員が少ないように感じることもある。	きめ細やかな支援が行えるよう、一日の利用者数を検討していく。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	ホワイトボードによる活動予定の表示等、見通しをもたせる工夫はしているが、建物の構造上、段差があったりスロープが設置できなかったり、整備に関しては不十分などところがある。	はい78% わからない22%	それぞれの障害の特性に応じ、安心して過ごせるよう配慮していく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子どもたちの活動に合わせた生活空間の確保	毎日の清掃・消毒で清潔な環境づくりを心がけ、子どもたちが安心して生活が送れるよう配慮している。	はい90% わからない10%	現状を維持していく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクルへの職員の積極的な参画	日々のミーティングで前日の反省や留意点を職員全員で出し合い、個に応じた適切な療育に生かしている。		今後もミーティングを大事にしながら、話し合いを深めていく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	実施していない。		機会があれば実施する。
	3 職員の資質の向上を行うための研修の機会の確保	事業所内での研修機会を定期的に設け、職員の資質向上を図っている。		更なる職員の資質向上を図り、研修を強化していく。
	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	子どもの状況を把握し、保護者のニーズ・子どものニーズを反映した支援計画を作成している。	はい94% わからない6%	保護者のニーズはもちろんのこと、子どものニーズも確実に受け止め、計画に反映していく。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	個別・集団それぞれの活動における子どもの状況を踏まえ、目標設定を行っている。		個別・集団それぞれでの目標を明確に打ち出し、それに沿って計画をしていく。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	子どもの状況を把握し、目標設定し、目標達成に向けた具体的な支援内容を記載している。	はい97% わからない3% 保護者の希望をしっかりと聞いていただいた。	目標達成に向け、更に具体的な支援を考えていく。
	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に添った適切な支援の実施	全ての職員が子どもの特性を理解し、目標達成に向けた支援を行っている。	はい85% わからない15%	支援計画を基に、目標達成に向けたきめ細やかな支援を行っていく。

適切な支援の提供	5	チーム全体での活動プログラムの立案	職員全員で意見を出し合い、子どもが笑顔で楽しんで取り組める活動プログラムを考えている。		忌憚のない意見交換ができる雰囲気を作り、ニーズに合ったプログラムを立案していく。	
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	限られた時間の中で、子どもや保護者のニーズに合った支援を行っている。		子どもや保護者のニーズを受け止め、支援に反映していく。	
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	全ての活動において、事前に目標を立て、活動後に反省点を出し合っている。	はい64% わからない36% 活動内容がよくわからない。	振り返りを重要視し、今後も改善点を話し合っていく。活動内容をわかりやすく伝達する手段を検討する。	
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	朝のミーティングで、その日の支援内容や役割分担について確認している。		職員間で支援の振り返りや留意点を確認していく。	
	9	支援終了後における職員間での情報共有	全職員が業務を終えた後、次回の支援に生かせるよう、情報の交換・共有を行っている。		気兼ねなく意見交流できる雰囲気の中で、情報共有を行っていく。	
	10	日々の支援に関しての正確な記録や支援の検証・改善の継続実施	子どもの個別ファイルに、活動の様子や留意点を記録し、改善点を話し合っている。		支援の検証ができるような記録を意識し、今後の療育に生かしていく。	
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	半年に一度、モニタリングを実施し、支援計画の見直しを行っている。		目標や課題にずれが生じた場合、即時にモニタリングを実施し見直していく。	
	関係機関との連携	1	子どもの状況に精通したふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	児童発達支援管理者、または、児童の状況を把握している職員が参加している。		今後も積極的にサービス担当者会に参加するよう努める。
		2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもを支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			
		3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもを支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等との連絡体制の整備			
		4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定子ども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の情報共有	足並みを揃えた支援ができるよう、各関係機関との情報の交換・共有を行っている。		引き続き必要な情報交換を行っていく。
5		放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	開所から1年未満のため、実施できていない。		必要時に行っていく。	

保護者への説明責任・連携支援	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等、専門機関との連携や専門機関での研修の受講の促進	コロナ禍ということもあり、積極的に受講できていない。		状況に応じて連携、受講していく。
	7	児童発達支援における保育所や認定子ども園、幼稚園等の交流や、放課後等デイサービスにおける放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	コロナ禍ということもあり、交流の機会を設けていない。	はい9% いいえ9% わからない82% 学校の役割であり、放課後デイサービスでそれを望まない。	状況に応じて検討していく。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など、地域に開かれた事業の運営	コロナ禍ということもあり、実施できていない。		状況に応じて検討していく。
	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時やモニタリング時に説明を行っている。	はい94% わからない6% 丁寧に説明をしていただいた。	今後も丁寧なわかりやすい説明を心がけていく。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	保護者への丁寧な説明を心がけ、保護者の同意を得ている。		今後も丁寧なわかりやすい説明を心がけていく。
	3	保護者の対応力向上を図る観点から、保護者に対するペアレントトレーニング等支援の実施	子育てや関わりの観点から、保護者へ助言を行う場合はあるが、ペアレントトレーニングについては実施できていない。	はい39% いいえ43% わからない18% ペアレントトレーニングに関心があるので受けてみたい。	研修等でペアレントトレーニングについて知識を深め、保護者に広げていく。
	4	子どもの発達の状況や課題について、保護者との共通理解	家庭連携時や送迎時に、子どもの様子や課題について毎回話し合っている。	はい90% わからない10% 送迎時や連絡帳等で詳しく教えてもらっている。いつも丁寧に教えてくださるので感謝している。	今後も共通理解ができるよう努めていく。
	5	保護者から子育ての悩み等に対する相談への適切な対応	子育て経験のある職員や子育て中の職員が、率先して助言している。	はい82% わからない18% 定期的にアドバイスをいただいている。課題解決に向けた提案をしてくださるので助かる。	保護者の悩みに寄り添い、助言をしていく。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	父母の会の活動や保護者会を実施することはできていない。	はい3% いいえ58% わからない39% 保護者同士の交流の場を設けてほしい。	状況に応じて検討していく。
7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制の整備	契約時に苦情対応の説明を行っている。	はい55% わからない45%	説明を丁寧に行っていく。	
8	障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮	子どもの特性に応じた伝達方法で、意思疎通を図っている。保護者とは、連絡帳を通して情報交換を行っている。	はい79% わからない21% 連絡帳にばらつきがあり、子どもがどのように過ごしたかわかりにくいときがある。	苦情対応の説明を丁寧に行う。	
9	活動概要や行事予定、連絡体制等の情報について子どもや保護者への発信	主に連絡帳を通して情報を発信している。	はい21% いいえ13% わからない66% 活動の様子を撮った写真が見たい。活動予定をラインやブログなどSNSで発信してほしい。	状況に応じ検討していく。	

非常時の対応	10	個人情報の取り扱いに対する十分な対応	個人情報については、法令を遵守し、流出防止に努めている。	はい72% わからない28%	引き続き十分な注意を払い、流出防止に努めていく。
	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	周知が事業所内にとどまっておらず、徹底ができていない。	はい45% いいえ4% わからない51% マスクをしていない(できない)子どもが多くいることに驚いた。	各マニュアルを掲示し、周知に努めていく。
	2	非常災害の発生に備えた定期的な避難訓練の実施	虐待をテーマに職員全体で研修を行っている。	はい27% わからない73%	訓練の実施機会や方法を見直し、子ども全員が参加できるよう配慮していく。
	3	虐待を防止するための職員研修の実施	虐待をテーマに職員全体で研修を行っている。		引き続き研修を行い、職員の意識向上に努めていく。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に説明・了解を得たうえでの児童発達支援計画又は放課後デイサービス計画への記載	契約時に説明を行い、同意を得ている。		身体拘束の必要時を限定し、話し合い決定した後、説明と同意の上で計画に記載していく。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	契約時に保護者に確認し、医師の指示書を提出してもらう。		今後も保護者確認を怠らず、職員の共通理解の元、子どもが安全に過ごせるように配慮していく。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び、事業所内での共有	ミーティングや会議等で作成した事例について話し合い、情報共有をしている。		引き続きヒヤリハットの共有、改善点の話し合いを行い、安全に業務を遂行できるよう努める。